

木の駅&森の学校 通信

「薪づくり」で みんなの心と体も暖めたい!

●卒業と出発

六月十四日は木の駅定例会。十八時からの斎藤真吾さんの地域おこし協力隊卒業記念報告会。中川村に来るまでの経緯から林業にかける思い、そして中川村最奥部に住む覚悟、そこで実現したい夢・・・もつともっと聞きたかったなあ。



斎藤真吾さん



傍聴も増えて盛況な実行委員会

その余

韻冷めやらぬまま斎藤さんは事務局長として、十九時から木の駅実行委員会を開催。十一月から本格稼働する木の駅の課題が一つ一つ協議されました。

議題は
①地域通貨のデザインを小学生たちから募集する。(採用案には副賞!)、

②出荷者の仲間づくり、
③商店の仲間づくり(地域通貨活用を)

④初心者でもイチから学べる山仕事研修の開催、

⑤山を持っていなくても山仕事を学べて出荷もできる仕組みづくり

⑥木の駅で集めた丸太をどのような機械で薪割り、どのように乾燥させ入浴施設まで搬送するのか?薪ボイラー導入にあたっての注意点をコスト算出や必要な面積や仕組みとは何か?を学ぶ視察参加者募集!
などなど、信州大学の教官と学生、東京のふるさと財団からの傍聴もあり大賑わいでした。

●百聞は一見に如かず

七月十一日岐阜県大垣市上石津町にある木の駅の先輩「木の駅上石津」と薪ボイラー会社「森の仲間たち」の視察に出かけました

上石津町は大垣市からポツンと離れている山里です。合併の時にそうになりました。合併したら湧出する冷泉で温泉施設を作ろう、その時は薪で沸かした温泉を、ということ

で二〇一一年九月に「木の駅上石津」ができました。それがきっかけになって、上石津町には「森の仲間たち」という会社がありました。アイトーン若者でもある森大顕さんが「薪で地域と森を元気にしたい」と起業しました。短期間に全国で四〇以上の薪ボイラーを普及しました。最近、高速薪割機と家庭用薪ボイラーを導入し、上石津支所(旧町役場)に薪ボイラーを試験導入するということ、で今回の視察になりました。



地元の鉄工所製の薪用ラック(旧役場の倉庫)



チョー早いっすね。
(斎藤)

往復6秒っすから。

総勢一四人の視察団は、旧役場で鉄製ラックに入れた乾燥薪を見て触って、そのまま木の駅そばの薪割現場へ直行。ちようど女性を含む若者三名で薪割中。直径三〇cm近い一m材を四つ割りしているところでした。「高速ピストンでたぐさん割れるけど、肝心なのはボチボチ休憩しながらやること」と森さん、おじさんたち

ちはなんでもついで一生懸命やってみようらしい。



ここが投入口。
(森)

次に、旧役場に導入予定の薪ボイラー見学。一七〇kwで一日約一立米を五〜六回に分けて投入する、一回一五分ほどで済むとか。油やガスならスイッチポンだけど、薪は木を伐ることから割ること、乾かすこと、くべることまで、とかく手がかかる。その便利な油の代金はほとんどそのままアラブやアメリカそして東京へ出ていく。しかし、薪の手間賃はすべて地元を循環する。小さな雇用を生み出し、地元商店を潤す。

続いて、家庭用薪ボイラー見学。コミセンや保育所など小さな公共施設もこれで十分かと思いつつ、三五度の猛暑での燃焼実験はさすがきつい。早々に退散。

木の駅上石津の事務局長でもある三輪千賀子さんたちのグループが作る地域こだわり食材の弁当をいただいて、午後からは意見交換会というか、質問タイム。

Q・適正な人件費算出は？
A・出来高払いと時間給と混合がある。どうしたら気持ちよく無理しないで続けられるかを大切にしたい。
Q・薪割から乾燥、運搬までに必要な車両や機材選定？
A・薪割機は安全性と腰を痛めない工夫。軽トラ、フォークリフトがあるが、何を大切にするか。一部の人に集中させるかだれでも参加できるようにするのかなど。

Q・木の駅と薪販売納入組織との関係は？
A・ボイラー用薪販売納入組織は、品質確保と納期厳守が至上命題。木の駅は山に向き合う人を増やす自治的組織、最も適切な出荷先の決定権を持っている。

どちらも地域貢献を目指すのが、適度な緊張関係が必要なのは。



(編集後記)

梅雨明け猛暑の中の強行軍でした。視察メンバーの熱意はもっと熱かったですよ！

(丹)